

北海道大学
千葉恵教授
との出会ったのは、一九八五年十月ごろ、

千葉氏の専門はギリシヤ哲学で私は経済学。おおよそ接点のなさそうな二人だが意気投合し、切磋琢磨する間柄になった。

英国のオックスフォード
大学日産日本問題研究所
で一カ月遅れの新聞を讀

外から見れば世間知らずの弥次喜多道中のような日々だっただろうが、二人にとってはかけ

た。当時、私も千葉氏も大学院生で博士論文を書くために日々研さんを積んでいた。

私の曾祖父、南鷹次郎は札幌農学校の二期生で後に北海道帝国大学総

縁からの曾祖父

オックスフォードの大学院生活は優雅なもので、指導教授に月に二度ほど会いに行くだけでよかった。朝

村北 長になった農学者だった。親しくな
だが、千葉氏は曾祖父と同期の内村

は好きな音楽を聴き、昼はカレッジの食堂で仲間とおしゃべり。夜は友人を招いてパーティーを開き、暇があれば、新刊小説や歴史書を読み、哲学や数学など専門とは違ふ分野に首を突っ込んで暮らしていた。

鑑三先生が始められた無教会のキリスト教徒である。そんな縁もあり、私の両親も千葉氏に親近感があり、文字通り家族ぐるみでお付き合いさせていた。 (きたむら・ゆきのぶ 一橋大学教授)